

第20回

全国さくらサミット in 各務原

『桜による都市ビジョン』

『ボランタリーと連携する桜』

期日 平成24年4月8日(日)・9日(月)

会場 各務原市産業文化センター「あすかホール」ほか

主催：各務原市、自治総合センター
後援：総務省、岐阜県



● CONTENTS ●

ごあいさつ	2
シンボルマーク・さくらサミット憲章・桜里園ネット	3
サミット加盟自治体	4
これまでの開催地・テーマ一覧	5
スケジュール	6
講師プロフィール	7
加盟自治体の紹介	
北海道新ひだか町	8
宮城県柴田町	9
秋田県仙北市	10
福島県富岡町	11
茨城県日立市	12
群馬県前橋市	13
埼玉県北本市	14
埼玉県幸手市	15
東京都北区	16
新潟県新発田市	17
長野県伊那市	18
岐阜県本巣市	19
奈良県吉野町	20
鳥取県南部町	21
島根県益田市	22
島根県雲南市	23
長崎県大村市	24
熊本県水上村	25
宮崎県日南市	26
愛知県犬山市	27
岐阜県高山市	28
新潟県五泉市	29
岡山県津山市	30
岐阜県各務原市	31

ごあいさつ

各務原市長 森 真



「第20回全国さくらサミットin各務原」へ全国各地より、ようこそおいでくださいました。

満開の桜と共に、皆様を心より歓迎いたします。

桜は日本の花です。私たちが各地で桜を楽しむことが出来るのも、桜を植樹し、守り育ててくれた先人の努力があってこそです。そうした贈り物を大切に未来へ引き継ぎ、次世代の人々が桜を楽しむことが出来るようにする、今を生きる私たちの使命です。

各務原市では現在、桜回廊計画を推進中です。市内新境川沿いに「日本の桜名所100選」にも選ばれた「百十郎桜」並木があります。昭和6年、本市出身の歌舞伎役者「市川百十郎」が帰郷の折の情景に心打たれ、ソメイヨシノを1000本寄贈し地元の方と植樹したのが始まりです。桜回廊計画は、この並木を基に桜で市域全体を取り囲む総延長39キロの壮大な計画です。毎年早春の季節に市民ボランティアの手によって300本に及ぶ桜を植樹し続けています。計画は順調に進み、現在延長は23キロまで伸びています。又、回廊の拠点として201種の桜を有する「各務野櫻苑」を整備しました。さらに、林種転換により里山に桜山を誕生させました。各務原市民は桜に抱かれて生活をするのです。

さくらサミットに集う自治体は、桜を通じたまちづくりに積極的に取り組む個性ある都市です。このサミットで、桜を生かしたまちづくりについて議論をし、わがまちの魅力を大いにアピールし、更に魅力ある都市づくりに邁進しようではありませんか。

最後となりましたが、同サミット加盟自治体の中にも、東日本大震災の被害に遭われた自治体があります。あらためてお見舞い申し上げます。被災された皆さまには未来に希望を持ち、一日も早い復興を心よりご祈念申し上げます。

シンボルマーク



さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第2回さくらサミットで採択されました。地球を表す円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・強力・調和が、グローバルな広がりを見せ、末永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。

さくらサミット憲章 (平成元年9月22日制定)

Success
成功

第1条：今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach
接近

第2条：「21世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword
言葉

第3条：まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity
調和

第4条：文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation
縁

第5条：「桜」によって結ばれた縁を大切にし、お互い友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

Agreement
合意

第6条：共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

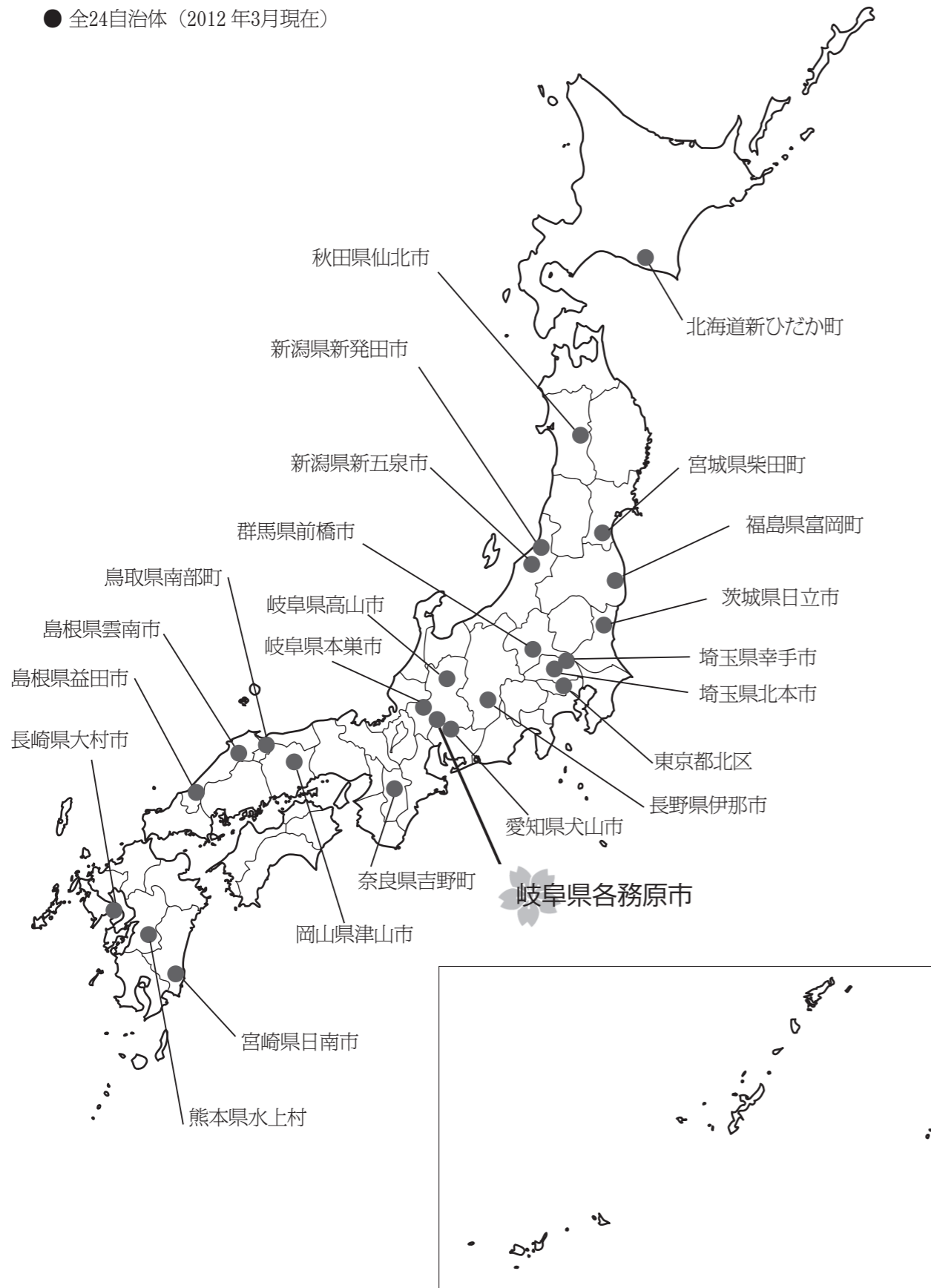
オリオン 桜里園ネット

平成18年1月に開催された「第16回さくらサミットin富岡」において、サミット加盟自治体の連携強化・情報交換の促進のために各自治体のWEBサイトを結ぶ「桜里園（オリオン）ネット」を構築することが承認され、立ち上がりました。さくらサミット加盟自治体へのとびらとして活用されています。

◆ URL ◆ http://shop.gyosei.jp/contents/pickup/detail/post_1.html

サミット加盟自治体

● 全24自治体 (2012年3月現在)



これまでの開催地・テーマ一覧

	開催地	開催日	テーマ
第1回	島根県木次町	昭和63年4月11日(月)	"桜"によるまちづくりと地域間交流
第2回	長野県高遠町	平成元年9月22日(金)	桜によるまちづくりと地域活性化
第3回	群馬県鬼石町	平成2年11月15日(月) 16日(月)	桜による地域開発
第4回	秋田県角館町	平成3年4月30日(月)	桜による産業づくりと文化
第5回	長崎県大村市	平成4年4月4日(月)	桜をめぐる観光と交通
第6回	奈良県吉野町	平成6年4月21日(月)	さくら文化の醸成
第7回	高知県佐川町	平成7年4月6日(月) 7日(月)	桜に憩う、桜を楽しむ
第8回	北海道静内町	平成8年5月9日(月) 10日(月)	さくらサミットからの桜情報の発信
第9回	新潟県上越市	平成9年4月13日(月)	桜のまちづくりと住民参加
第10回	東京都北区	平成10年4月5日(月)	さくらがつくる歴史と文化
第11回	宮崎県北郷町	平成11年4月4日(月) 5日(月)	人にやさしく桜にやさしい環境づくり
第12回	埼玉県幸手市	平成12年4月9日(月) 10日(月)	幸せの手でつかむさくらの未来
第13回	茨城県日立市	平成13年4月7日(月)	桜と語るさくらの未来 ～元気さくらとネットワーク
第14回	岐阜県根尾村	平成14年5月18日(月)	さくらと歩む地域の未来
第15回	熊本県水上村	平成16年9月30日(月) 10月1日(月)	桜から桜まで ～ツーリズムと通年型観光～
第16回	福島県富岡町	平成18年1月26日(月) 27日(月)	～桜でひとつになる瞬間(とき)～ 未来への架け橋
第17回	長崎県大村市	平成19年4月14日(月) 15日(月)	わがまちの桜とまちづくり
第18回	秋田県仙北市	平成21年7月11日(月) 12日(月)	～さくら・景観～
第19回	奈良県吉野町	平成22年7月15日(月) 16日(月)	未来へ！桜を守り育てよう
第20回	岐阜県各務原市	平成24年3月8日(月) 9日(月)	さくらによる都市ビジョン ボランティアと連携するさくら

スケジュール

第1日：7月8日（日）

※第1日目は、加盟自治体関係者のみの参加で開催します

- 13:30 事前会議
- 15:30 エキスカーション(さくらまつり視察)
- 18:00 交流会

第2日：7月9日（月）

- 8:30 開場
- 9:00 オープニングミニコンサート
出演：「セルフイーユ」
- 9:15 開会あいさつ
- 9:20 記念講演
「桜の魔力と桜守」 講師：林 進氏（岐阜大学名誉教授）
- 10:10 休憩
- 10:20 全体会議
「さくらによる都市ビジョン」
「ボランティアと連携するさくら」
コーディネーター：篠田 伸夫氏（前全国町村議会議長会事務総長）
- 12:10 大会共同宣言採択
- 12:15 次期開催地発表
- 12:20 閉会

講師プロフィール

記念講演



講師

林 進 はやし・すすむ

岐阜大学名誉教授

1940年生まれ。京都大学大学院農学研究科修士課程修了。農学博士。専門分野は、森林科学、樹木医学、緑地環境デザイン学。特定非営利活動法人犬山里山学研究所理事長、公益財団法人日本花の会評議員、岐阜さくらの会顧問など多岐に渡る活躍をしている。各務原市においては、長年にわたり「百十郎桜」の保護活動を指導している。

●主要著書

「森の心・森の智慧」（学陽書房）、「人工林ハンドブック 理論編実践編」など多数。

●桜保護に関わる主要な業績

淡墨桜、臥龍桜、荘川桜、揖斐二度桜、中将姫誓願桜、兼六園熊谷桜・旭桜・菊桜

全体会議



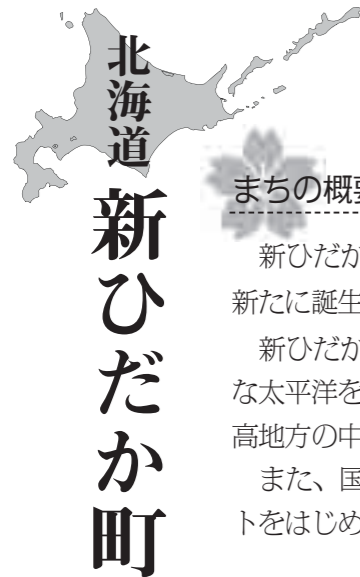
コーディネーター

篠田 伸夫 しのだ・のぶお

前全国町村議会議長会事務総長

1943年鳥取県生まれ。67年京都大学卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、88年に岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。その後、自治省振興課長、東京都総合計画部長、岐阜県副知事、消防庁次長、救急振興財団副理事長、全国町村議会議長会事務総長などを歴任。現在、全国仮設安全事業協同組合専務理事、NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク副理事長。

「第10回さくらサミット in 北区」より、コーディネーターを務めている。



北海道 新ひだか町

まちの概要

新ひだか町は、平成 18 年3月 31 日にそれまでの「静内町」と「三石町」が合併して新たに誕生した。

新ひだか町は北海道の南東部に位置し、日高随一の盛観さをもつ日高山脈を背に雄大な太平洋を一望でき、温暖で緑あふれる自然に恵まれた、産業、経済、文化が発達した日高地方の中核都市である。

また、国内でも有数の馬産地であり、ダービー馬ウイングチケット、タニノギムレットをはじめ、G17勝のウオッカなど、数多くの名馬を輩出し続けている。

桜の概要



約 3,000 本の桜が直線で7kmにもわたって咲き誇る一本道、二十間道路。そのスケールは日本屈指である。左右の並木の幅がちょうど二十間（36m）あることからそう名付けられ、日本を代表する桜の名所として「日本の道百選」や「さくら名所 100 選」、「北海道遺産」等にも選定されている。

かつてこの地にあった宮内省の御料牧場を視察する皇族の行啓道路として造成されたのがはじまりで、1916（大正5）年から3年をかけて近隣の山々の桜が移植された。

桜はほとんどが「エゾヤマザクラ」一種であることから、開花時期の5月上旬には競うかのように一斉に花が開く。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

町のシンボルの一つとして長年にわたり愛され続けた二十間道路の桜は、ほとんどが樹齢 90 年を超える高齢樹であるため、樹勢の衰えが随所に見受けられる。そのため、樹勢回復と延命治療が最大の課題であると位置付けており、今もなお、調査・治療を継続的に実施している。

また、多くの方の善意により今もなお増え続ける「さくら基金」は、桜によるまちづくりの貴重な財源として、今後の有効的な活用方法を検討している。

◇新ひだか町 web サイト：<http://shinhidaka.hokkai.jp/>



宮城県 柴田町

まちの概要

柴田町は、仙台駅から南に 25km に位置し、町の総面積は 53.98 k m²、人口は 3万9,341 人の県南最大規模の町。

藩政時代、伊達騒動で知られる原田甲斐と名門柴田家の城下町として栄えた「船岡」と、奥州街道の 64 番目の宿場町として栄えた「槻木」が、昭和 31 年に合併して誕生した町である。

桜の概要

柴田町には、日本のさくら名所 100 選に選ばれた「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」があり、東北有数の桜の名所として知られている。毎年「しばた桜まつり」が開催され、県内外から 20 万人を超す花見客で賑わう。

「船岡城址公園」では、1,000 本を超す染井吉野桜が咲き誇り、満開時には全山が桜色に染まる。「白石川堤一目千本桜」は、町から大河原町に至る総延長8km に約 900 本のソメイヨシノが植えられている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

およそ 100 年の歴史をもつ桜の景観を町の誇りとする「柴田さくらの会」をはじめ町民各位のご尽力により、町内のいたるところに桜の植栽事業を展開してきた。このことにより数的には充足された観がある。

今後は、この景観を後世に継承していく施策の展開が喫緊の課題であると考えている。例えば、桜の古木をどうするのか、植え替えするとなれば、ソメイヨシノに拘るべきか。町民の各種希望を取り入れて桜を植栽したら良いのか等の意見を踏まえ、町民と協働により早期に実施したい。

◇柴田町 web サイト：<http://www.town.shibata.miyagi.jp/>

秋田県 仙北市

まちの概要

仙北市は、秋田県の東部中央に位置し、岩手県と隣接している。平成17年9月20日に田沢湖町、角館町、西木村の旧3町村が合併し形成された。仙北市のほぼ中央に水深が日本一の田沢湖があり南に秋田こまちの産地仙北平野へと開けている。地域の約8割が森林地帯で、玉川温泉や乳頭温泉郷と温泉にも恵まれている。

角館町地区には、元和6（1620）年の町並みが現存し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。山桜の樹皮を原材料とした伝統工芸樺細工でも知られている。

桜の概要

仙北市角館町の国指定2件の桜は、雪に閉じ込められた長い冬の終わりの証として多くの人々に春の訪れを見せてくれる。

武家屋敷一帯のシダレザクラは藩政時代以来の歴史的記念物であり、今ではこの一帯の不可欠な景観構成要素となっており、花の時期はもちろんだが、四季を通じ歴史的風趣を添えている。

一方、まちの中央部を流れる檜木内川堤のソメイヨシノの桜並木は、昭和9年今上陛下の誕生を祝い記念植樹したものである。樹齢約70年2kmの桜並木には、老木の桜が今も壮観な花のトンネルを見せている。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

伝統的建造物群保存地区に選定されている武家屋敷の修理風景や国指定の角館のシダレザクラや、国名勝の檜木内川堤の桜他の



保存管理等、市内の文化財を守りながらその情報を発信することにより、新規の方のもとより、リピーターの方に何度も訪れていただけるような安らぎを与えたい。

また、市内の標高差による開花推移によって、それぞれの景観を長く楽しんでいただけるよう努めたい。平成22年度からは新たに桜係を設置し、さくらアドバイザー（黒坂登氏）の指導のもと、桜の維持管理を今まで以上に丁寧に実施したいと考えている。

◇仙北市 web サイト：<http://www.city.semboku.akita.jp/>

福島県 富岡町

まちの概要

富岡町は、福島県浜通り地方の中央部に位置し、東は広大な太平洋が広がり、西は緑豊かな阿武隈山系に囲まれた町である。町内を二分して太平洋に注ぐ富岡川や阿武隈山地を流れる滝川溪谷、大倉山、麓山などの山々、断崖絶壁の海岸線、離れ島が散在する浜辺など大自然の宝庫となっている。四季を通じてしのぎやすい温暖な気候に恵まれ、降水量も比較的少なく、農作物の栽培に適した暮らしやすい地域である。

桜の概要

富岡町の夜の森（よのもり）の桜は、明治30（1900）年、半谷清寿（はんがいでいせいじゅ）氏が荒野だったこの地を開拓のため入植したとき、宅地周辺に300余本のソメイヨシノを植えたのが始まりとされている。

その後、清寿氏の次男・六郎氏や地域住民に受け継がれ、華の町へと生まれ変わった。樹齢100年を超える桜も含めて、約2.5km続く桜並木となっている。平成2年には、(財)日本さくらの会による「別選さくらの名所」に選定された。

これらを含め、現在、町内には約2,400本の桜が咲き乱れる。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

東日本大震災と原子力発電所の事故の影響で富岡町は人の立入りが制限される「警戒区域」に指定されている。そのため、長い間さくらを活用したイベント事業を行ってきたが、それらのさくら祭りも今では開催できない状況にある。

そのため、町に帰還するための第一歩として、放射線量を下げるときの除染作業を試験的に行っており、本格的な除染によりさくらの除染も今後行うことになる。町の財産であるさくらの木を守り、町復興後の桜祭りの開催を目指したい。

◇富岡町 web サイト：<http://www.tomioka-town.org/>

◇富岡町観光協会 web サイト：

<http://www.haru-urara.com/home.html>

◇富岡町商工会 web サイト：<http://www.pulapula.net/>



茨城県 日立市

まちの概要

日立市は太平洋と阿武隈山地に囲まれた自然豊かなまちであり、明治時代から鉱業、電気機械産業を中心とした国内有数の鉱工業都市として成長してきた。

また、伊師浜国民休養地は、ウミウの捕獲地として知られ、長良川をはじめ全国の鵜飼地にウミウを提供している。

特色としては地域コミュニティの活動が盛んで、福祉・環境、防災、防犯・生涯学習からさくらのまちづくりまで、多くの団体が幅広く活動している。

桜の概要

大正の初め、煙害で荒廃した山々に、日立鉱山が「大島桜」など煙害に強い苗木を大

量に植林したのが始まりとされる。桜のトンネルをつくる平和通りと約1,000本のさくらが植栽されているかみね公園は「日本のさくら名所100選」に選ばれている。

また、十王パノラマ公園には35種約400本のさくらが植えられており、平和通り、かみね公園と併せて日立さくらまつりの会場となっている。

本市特有の桜品種として、平成18年8月に「日立紅寒」が種苗法に基づき品種登録された。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

日立市の桜は、市民・企業・行政が鉱山の煙害をきっかけにまちづくりに取り組んできた現れであり、まちの歴史とともに育まれてきた大切な資源であるさくらを次世代に伝えていくため、官民一体となって事業を推進していきたい。

また、日立市固有の品種として登録された「日立紅寒」についても、それを活かした事業を検討しながら、市を中心に苗木の植栽を推進していきたい。

—主な整備等

- ・テングス病枝除去事業の実施
- ・日立紅寒桜の育成の推進
- ・老木化したさくらの計画的な更新

◇日立市 web サイト：<http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/>
◇日立市観光協会 web サイト：<http://www.mito.ne.jp/~h-kanko/>

群馬県 前橋市

まちの概要

群馬県のほぼ中央にある上毛三山の雄「赤城山」の山頂までを市域とする前橋市は、清らかな水をたたえた利根川や広瀬川が市内を流れる、緑豊かで自然に恵まれた都市である。

群馬県の県都として発展し続けてきた本市は、平成21年4月、県内初の中核市として新たなスタートを切った。

萩原朔太郎をはじめ多くの詩人を生み出したことから「近代詩のふるさと」ともいわれ、「水と緑と詩（うた）のまち」をキャッチフレーズにまちづくりを推進している。

桜の概要

赤城南面千本桜は、(財)日本さくらの会「日本のさくら名所100選」にも選ばれた名所であり、毎年4月に開催される桜まつりでは、約2kmに渡ってできる桜のトンネルを見に多くの観光客が訪れている。

また、赤城南面千本桜に隣接して整備された「みやぎ千本桜の森公園」には、12種、約400本の桜と約12万株の芝桜が植えられ、桜と芝桜を楽しむことができる。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

赤城南面千本桜は、戦後の荒廃した山林に豊かな緑を復活させようと、地域住民が一人丸となって昭和31年からソメイヨシノを植栽した桜並木である。植栽されてから50年以上経過していることから将来にわたってこの地を桜の名所として継承するため、隣接地にみやぎ千本桜の森公園を整備した。

公園内の桜は、千本桜と同様、地域住民が中心となり植栽や管理を行っているほか、平成19年からは市民に親しまれる公園づくりの一環として、「芝桜ひろげたい運動」を展開し、毎年桜まつり期間中に1万株以上の芝桜が植えられている。そして、地域住民による公園愛護会が組織され、除草作業などの管理も市民の手により行われている。



◇前橋市 web サイト：<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>
◇前橋観光コンベンション協会 web サイト：<http://www.maebashi-cvb.com/>

埼玉県 北本市

まちの概要

北本市は東京から40～45kmの位置にあり、武蔵野の面影を残す雑木林が点在する緑豊かな住宅都市である。昭和46年11月3日に埼玉県内33番目の市として誕生した。

まちづくりの方針に「ずっと住み続けたいまち、きたもと」を掲げ、経済・教育の活性化、便利で公正な行政サービスの提供、子育て支援の充実、自然環境の保全などの取組みを進めている。

桜の概要



北本市の桜には、日本五大桜の一つで、大正11年に国の天然記念物に指定された樹齢約800年の「石戸蒲ザクラ」（他に福島県三春の滝ザクラ、山梨県武川村の山高神代桜、静岡県富士見市の狩宿の下馬ザクラ、岐阜県本巣市の根尾谷淡墨桜）、市の天然記念物として指定されている樹齢約200年の「高尾エドヒガンザクラ」、ソメイヨシノの「石戸城ヶ谷堤」など、桜の名所が数多くあり市民に親しまれている。平成7年には石戸蒲ザクラの後継樹や北本市に転入された方々の故郷から送られた11種182本の様々な種類の桜を植栽した「高尾さくら公園」を開設し、毎年市内外から多くの人々が訪れている。

また、市内の雑木林には、大宮台地における全ての自生種、ヤマザクラ、エドヒガンザクラ、シダレザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラが今なお健全に自生しており、街路樹として八重桜や企業内の緑地にソメイヨシノなど多くの桜が植栽されている。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

イメージアップ推進のため、市の花である桜を、市民一体となって魅力あるまちづくりを目指す指針として「観せる」「伝える」「創る」という3つの展開方針に沿って事業を推進する。また、石戸蒲ザクラは推定樹齢800年という高樹齢で樹勢が低下しており、樹勢維持のための施肥・外科的処置を行うとともに、市民配布したクローン技術を用いた後継樹の育成管理を推し進めていく。

◇北本市 web サイト：<http://www.city.kitamoto.saitama.jp/>

埼玉県 幸手市

まちの概要

幸手市は埼玉県の北東部に位置し、東京まで電車で約1時間、人口約5万4,000人の緑豊かな住宅都市として発展している。かつては、日光街道の宿場町として栄え、現在では東京のベッドタウンとしての役割を持つ一方、市の東側には豊かな田園地帯が広がっている。

平成24年度以降に圏央道が開通予定であり、インターチェンジが設置され、周辺に新たな工業団地の整備が計画されています。

桜の概要

市内北部の権現堂堤には約1,000本の桜が1kmに渡って連なり、周辺には菜の花が作付けされ、桜のピンクと菜の花の黄色とのコントラストが見事である。

今年開催された第80回幸手桜祭りでは、約81万5,000人もの花見客で賑わい、関東屈指の桜の名所となっている。

また、地元住民で組織されたNPO法人幸手権現堂桜堤保存会が中心となって、桜や権現堂堤の保全を活発に行っている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

NPO法人幸手権現堂桜堤保存会が主体となり、権現堂堤の環境整備を行っているほか、紫陽花、曼珠沙華、水仙といった花を植栽し、桜だけではなく四季折々の花を楽しめる公園として権現堂堤を整備している。また、権現堂堤の桜は樹齢が60年以上になるため、現在では桜の維持管理に重点を置き、桜の保護や手入れを主体に事業を進めている。

◇幸手市 web サイト：<http://www.city.satte.lg.jp/>

◇幸手市観光協会 web サイト：<http://www.satte-k.com/>

東京都 北区

まちの概要

南北に細長い形の北区は、東京の北の玄関口に位置し、人口約33万人のまちである。石神井川や荒川の水運を利用して洋紙発祥の地として近代産業が発展してきたが、戦後は軍用施設が開放され住宅団地となるなど、時代とともに大きく変化してきた。現在は飛鳥山の桜、荒川の水辺空間など自然の豊かなまち、JRや都電など駅が非常に多く、商店街が賑わう、便利で活気のあるまちである。

桜の概要

首都圏にも、今では数々の桜の名所があるが、北区の桜は、江戸時代中期にまで遡る。八代将軍徳川吉宗が、庶民の行楽地とするために1,270本の桜を植樹した飛鳥山は、日本全国に知れ渡る花見場所となった。歌川（安藤）広重や葛飾北斎などの絵師も、多くの錦絵の題材とした。現在、区内には飛鳥山をはじめ、荒川土手や石神井沿いの並木道など桜の見どころは多数あり、春には多くの花見客が訪れている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

北区は、区の木を桜と制定している。また、北区のイメージアップを図るため推進している「イメージ戦略ビジョン」の中で、桜をキーワードのひとつとし、桜の花びらと明るい桜色をモチーフにしたコミュニケーションマークを作成した。

また、平成10年に「第10回さくらサミット in 北区」が開催されたことを記念して、飛鳥山において区民主体の「さくら SA*KASO祭り」が実施されており（今年で15回目）、支援を行っている。

◇北区 web サイト：<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

新潟県 新発田市

まちの概要

新発田市は、新発田藩10万石の城下町として栄えた風情を持つ、人口10万人を超える新潟県北部の中核都市で、堀部安兵衛の出身地としても有名である。白砂青松の海岸、国の天然記念物の椽平サクラ樹林、城下町の歴史と文化、もっと美人になれる温泉として全国的にも有名な月岡温泉などがあります。魅力ぎっしりの新発田にぜひお越しいただきたい。

桜の概要

市内各所に桜の名所があります。ライトアップされた新発田城と夜桜が美しい「新発田城址公園」、満開の桜色と菜の花色に染まる「月岡カリオンパーク」、加治川沿いに約2,000本の桜が連なる名所「加治川の桜堤」、長い年月の間に自然交配された約40種類1,000本の桜樹林が広がる国指定天然記念物の「椽平サクラ樹林」など、趣に富んだ桜を各所で楽しむことができます。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

桜は市の木に指定されています。また、市内各所に桜の名所が存在しています。加治川の桜堤は、かつての姿を復元したいという市民の声があがり、平成元年に旧建設省の「桜堤モデル事業」に認定されました。平成4年度から植栽を始めた桜の木は、現在ではかなり大きく育ってきています。市民団体が主体となり、桜の保守が行われています。また、市民主導で、寺町通りなどへのしだれ桜の植樹も行われています。



◇新発田市 web サイト：<http://www.city.shibata.niigata.jp/>
◇加治川商工会 web サイト：<http://www.niigata-hi-system.com/kajikawa/>

長野県 伊那市

まちの概要

平成18年3月31日に伊那市、高遠町、長谷村が市町村合併し、人口約7万4,000人の新「伊那市」となった。

高遠城址公園の桜はもとより、中央アルプスと南アルプス、市内中心を流れる天竜川・三峰川などの雄大な自然を有し、「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市」として、産業・観光の発展と自然環境との共生を目指している長野県南部の中核都市。

桜の概要

明治の廃藩置県により高遠城が取り壊されたが、明治8年に有志の手で近くにあった桜の植樹が行われ高遠城址公園としての整備が始まり、現在に至っている。

この桜はタカトオコヒガンザクラというコヒガンザクラの一種で大木となり、花も赤みが強い特殊な桜で、約1,500本に及ぶ樹林は県の天然記念物に指定されている。

新「伊那市」となり、ソメイヨシノやコヒガンザクラを有する伊那公園や春日公園を始めとする桜の名所が市内各地に数多く存在している。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

伊那市では、日本一の桜の里づくりをめざしている。

市民の桜に対する思いやり、愛着心の醸成を図るため、桜守協力のもと、桜の整備や市民による市内の植樹を拡大するとともに、友好都市等と連携した桜の植栽を行っている。

また、市内三大公園の桜（高遠城址公園、伊那公園、春日公園）を結びつけ、ニーズにあった公園整備と周回するためのしかけや、市内に点在する桜の名木を観光資源化する



るべく、パンフレットの作成等を行っている。

今後は、桜の観光客をさらに増加するため、県外、海外に積極的に誘客活動を行う一環として、外国語のパンフレット作成や看板整備、桜関連商品造成等滞在型の仕組みづくりを行っていく。

◇上越観光ネット：<http://www.city.joetsu.niigata.jp/kankou/index.html>

岐阜県 本巣市

まちの概要

平成16年2月1日に本巣町、真正町、糸貫町、根尾村の3町1村が合併して人口約3万5,000人余の本巣市となった。

県都の岐阜市の北西に位置し、北は福井県と境を接する山間部から南は濃尾平野の中ほどの平坦部にいたる。南北に細長くて、北に高く南に低い地形となっている。

さくらサミットには、旧根尾村時代から引き続き参加している。

桜の概要

樹齢1,500余年の淡墨桜は、継体天皇のお手植えの桜と伝えられる。

桜では日本一の巨木といわれ、「日本のさくら名所100選」にも選ばれた。

国指定の天然記念物で、蕾のときは薄いピンク、満開にいたっては白色、散りぎわには淡い墨を引いたような色をおびるといわれる。

過去、幾度も枯死の危機に陥ったが、山桜の根継ぎによる回生手術や作家宇野千代氏ら各界の保護活動によって、現在も盛観を保ち、毎年4月上旬には全国から20万人もの観光客が訪れる。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

現在市内各所に桜の木が植えられているが、その多くはソメイヨシノであり、比較的寿命が短く病気にも弱い管理に経費と労力をかけている。

今後は、寿命が長く病気にも強い淡墨桜（エドヒガン）の苗木を公共施設を中心に市内の多くの場所に植栽することを推進し、その名の普及を図りたい。

また、公園整備工事を平成21年度からの5ヶ年計画で進めており、病気や老朽化したソメイヨシノの伐採、樹生のあるソメイヨシノは植え替え等を行っている。

さらに、駐車場、トイレなどの施設の充実を図っている。

◇本巣市 web サイト：<http://www.city.motosu.lg.jp/>

奈良県
吉野町

まちの概要

吉野町は紀伊半島のほぼ中央に位置し、吉野杉や桧の美林に囲まれ、清流吉野川が町の中央を東西に流れる風光明媚な町である。一目千本と称される吉野山の桜を中心とした観光産業と、木材関連産業を基盤として発展してきた。南朝の哀史の里、山伏の宗教「修験道」の霊場としても名高く、数多くの人々が訪れている。

桜の概要

4月上旬から中旬頃、山の尾根から谷にかけてシロヤマザクラを中心に約3万本が咲き乱れ、山全体をほんのり桜色に染め上げる。平安時代の古今和歌集にも詠われている吉野の桜は1000年の歴史があり、修験道の聖地として信者による献木が古くから行われ、大切に保護されてきた。

その桜に惹かれ、古の時代より多くの文人墨客が訪れ、その美しさをしたためている。また、平成16年7月吉野山が「紀伊山地の霊場と参詣道」の中核の一つとしてユネスコの世界遺産に登録され、観桜期には毎年約40万人の観光客が訪れる。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

吉野山の桜は、蔵王権現への信仰の証として植え続けられ、1300年という長い年月を地元の人々によって、大切に保護されてきた。

しかし、近年ウメノキゴケに覆いつくされた木が目立ち、立ち枯れ被害に見舞われ、危機的な状況にあり、京都大学の調査チームにより衰退の根本原因の分析や対策を進めているところである。

また、四年前に官民が共同して「吉野の桜を守る会」を設立し、フォーラムやコンサートなどのイベントを通じて、吉野の桜の現状を広く訴えるとともに、調査や管理・保

護育成にかかる費用に充てるため「さくら募金」を設立し、全国から温かいご支援をいただいている。

今後は、皆様からの温かいご支援を無にしないよう、町民が一丸となり桜を守っていかねばならない。

また、吉野山の桜だけではなく、町全体としての桜の景観づくりを策定し、桜のまち吉野町として、桜が象徴する伝統文化を活かしたまちづくりを進めていきたいと考えている。



◇吉野町 web サイト： <http://www.town.yoshino.nara.jp/>

鳥取県
南部町

まちの概要

鳥取県西部の島根県境に位置し、東西12km、南北17km、面積114.03km²を有する人口1万1,710人の町で、特産の富有柿・梨・いちじくの生産で有名。

町内には、日本最大級のフラワーパーク「とっとり花回廊」があり、四季それぞれの花が一年中楽しめる数多くの人々が訪れている。

桜の概要

法勝寺城山公園及び法勝寺川沿いの土手には約33kmにわたって続く桜並木がある。夜になりぼんぼりに灯りが灯ると浮かび上がった桜が川面に映し出され、何とも幻想的な雰囲気をかもし出し、多くの人々が訪れている。ソメイヨシノ約1,000本。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

法勝寺川土手では、満開になると桜のトンネルができる。町のシンボルとなっている桜は、観光資源としても大切なものである。樹齢50年以上の木が多く、病気も発生し、枯木が増加している。桜木のアドバイザーなど専門家に診てもらい、整備が必要であると考えている。平成23年度は、ふるさと納税寄付金をさくらの保全・育成に活用した。

大木が一級河川の土手に植わっているため、管理は河川事務所との連絡も欠かすことができない。



◇南部町観光協会 web サイト： <http://www.town.nanbu.tottori.jp/kanko/>

鳥根県 益田市

まちの概要

益田市は、鳥根県の最西端にあって、北は日本海に望み、南は中国山地に至る、山陰と山陽を結ぶ要衝地です。平成16年に1市2町が合併し、人口約5万1,000人となった。面積は733.24km²と鳥根県の総面積の約1割を占め、その大半を林野が占めている。

桜の概要

金谷城山桜（かねだにじょうざんざくら）

種類：エドヒガン

樹齢：570年

樹高：15m

幹周り：6.67m

由来：入船山城を築いた澄川氏が金谷の地に移り住んだ際に、城の出丸部分にあたる所に植えたと言われている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

益田市美都町では「柚子と桜のまち」として、美都町桜の会を中心として「1万本の桜の植樹」の提唱を挙げ、毎年桜の植樹を実施している（H22年度現在1万3,173本の植樹を実施）。

特に金谷城山桜は高齢化しており、1本植えされている桜木の病気などについて対策を地元自治会及び桜の会と一緒に取り組んでいる。

◇益田市 web サイト： <http://www.city.masuda.lg.jp/>

鳥根県 雲南市

まちの概要

雲南市は、鳥根県の東部に位置し、松江市、出雲市に隣接、南部は広島県に接し、先人たちが守り育ててきた多彩で魅力ある資源を保有している。

豊かな森林や斐伊川の流れにみられる穏やかな自然、神話に象徴される銅鐸やたたら製鉄の歴史遺産、桜や蛭にみられる生命の多彩な輝きなど「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をキーワードに、地域資源を最大限活用したまちづくりを推進している。

桜の概要



平成2年に（財）日本さくらの会より、「さくら名所100選」に選定された「斐伊川堤防桜並木」は、ヤマタノオロチ退治の舞台となった斐伊川の清流に沿って約2kmにわたる桜トンネルで、中国地方随一の名所としてその名を馳せている。

この斐伊川堤防の桜は、明治の終わりごろから植えられ始め、市のシンボルとなっており、シーズンには多くの観光客で賑わう。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

雲南市では、ほかにも緑の桜「御衣黄」で有名な「三刀屋川河川敷」をはじめ、多くの桜名所があり、市民の関心も高い。平成17年には住民参加組織である「雲南市さくらの会」が結成され、新たな桜の名所づくりや管理研修会、会員募集活動が積極的に行われている。

今後とも雲南市全体で、市民共通の誇りとなるような桜のまちづくりの推進、豊かな景観形成に取り組んでいきたいと考えている。

◇雲南市 web サイト： <http://www.city.unnan.shimane.jp/>

長崎県 大村市

まちの概要

長崎県の中央部に位置し、西に大村湾、東に多良岳県立自然公園を臨む、東西12km、南北16km、総面積126.33平方kmを有する人口9万3,119人（H23.12末現在）の市。日本初のキリシタン大名大村純忠や天正遣欧少年使節などのキリシタン関連遺産や、幕末に坂本龍馬らとともに活躍した先人たちの偉業などを活用し、歴史観光立市を目指した取り組みを推進している。

桜の概要

「日本さくら名所百選」に選ばれた玖島城跡の大村公園をはじめ、市内全域にオオムラザクラ、クシマザクラ、ソメイヨシノなど約1万3,000本の桜が植えられている。なかでも、大村市の市花であるオオムラザクラは、八重桜の2段咲きで花弁の総数が60~200枚もある優雅な花で、里桜中の名花と言われており、大村神社のオオムラザクラは国の天然記念物に指定されている。3月下旬からの約1ヶ月間市内は桜一色に染まり、文字どおり「さくらの街おおむら」として多くの花見客で賑わう。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

大村公園は、わが国近代公園の先駆者として知られる大村藩出身の長岡安平が玖島城址に桜を植えたことに始まり、桜の名所として有名になりました。「日本さくら名所百選」に選ばれたのを契機に、「さくらの街おおむら」を広くアピールするための植栽事業を展開し、平成13年度に「さくらの街おおむら推進委員会」を設置して、より一層のさくらの街の推進に向けての取り組みを行っている。

今後、「サクラの里づくり」事業として、平成34年度までの計画で、市民と行政が一体となったさくらのまちづくりを推進していきたい。



◇大村市 web サイト：<http://www.city.omura.nagasaki.jp/>
◇大村観光ナビ web サイト：<http://www.omuranavi.jp/>

熊本県 水上村

まちの概要

熊本県の東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積190.96k㎡のうち、約92%が森林に囲まれた、人口約2,470人の村。

日本三急流の一つ「球磨川」の源が、ここ水上村にある。

桜の概要

昭和35年に村の中央部に完成した多目的ダム「市房ダム」の周囲約14kmに、修景事業として桜が植栽された。

その後、昭和59年に始まった「くまもと日本一づく運動」のなかで、当時の県知事であった細川護熙氏の提唱により、「日本一の桜の里づくり」が始まった。現在、住人総参加の桜の下草刈り、空き缶・ゴミ拾い等、一人ひとりの手で育てられている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

昭和35年に完成した市房ダム湖。完成後、村民ボランティアによりダム湖周囲に植栽された桜とダム湖の中心部に整備された噴水が吹き上げる約80mの水しぶきとのコントラストは観光客も圧巻。今後も市房ダムと桜を水上村のシンボルとして外部発信し、更なる誘客の増加につながるよう桜の維持管理に努めたい。

◇水上村 web サイト：<http://www.vill.mizukami.lg.jp/>

宮崎県
日南市

まちの概要

日南市は、太平洋に面し日南海岸国定公園を擁し、リアス式海岸により鶴戸神宮などの風光明媚なところが多々ある。

山間部は、飫肥杉、さくらの木を配し一部の照葉樹林地域では、森林セラピー基地として市内外より多くの方が訪れている。

桜の概要

昭和56年から桜の植樹活動を実施している。植栽は自治公民館や各民間団体、誘致企業等の協力のもと、公共施設周辺や沿道など約1万8,000本程度の植栽を完了している。

中でも花立公園には1万本の桜が植栽されており、多くの観光客が訪れる。12月には桜愛好家が開発した「日南寒桜1号」が早咲きで開花する。他には竹公園（約3,000本）もあり、春の観光名所となっている。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

さくらの植樹・管理については、今後も継続していき一層の拡充を図りながら公園内の道路・遊歩道及び駐車場の整備に努め、来園客には春の休日を満喫していただきたい。



◇日南市 web サイト：http://www.city.nichinan.lg.jp/

愛知県
犬山市

まちの概要

本市は、愛知県の最北端に位置し、市の北側を流れる木曾川の一帯は、日本ライン峡谷を中心とした景観に優れる飛騨木曾川国定公園に指定されており、川下りや伝統的な鵜飼も行われている。国宝犬山城や博物館明治村などの歴史文化資源と、東部に広がる豊かな丘陵地や入鹿池などの自然資源は、都市近郊の保健レクリエーション機能の一翼を担っている。

桜の概要

本市には、犬山城周辺や桃太郎神社をはじめとした桜の名所が点在しているうえ、五条川沿いや木曾川堤防道路沿い、郷瀬川沿いなどに長く連続した桜並木が存在し、線的にもつながりのある桜の名所となっている。また、昭和49年に、市民提案により本市の花にも指定されている。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

市の花でもある桜と犬山城をはじめとした歴史・文化遺産など市内に点在する地域資源をネットワーク化し、新たな魅力づくりや市民の健康増進への寄与、安全で快適な歩行者空間形成として、市全域を歩いて巡る「歩行者ネットワーク構想」を平成19年度に策定し、この構想を基に整備を進めていく。



◇犬山市 web サイト：http://www.city.inuyama.aichi.jp/

岐阜県 高山市

まちの概要

高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、面積は東京都とほぼ同じ2,177.67 km²と日本一広大な市である。温泉資源や乗鞍岳、御岳、白山をはじめとする優れた山岳景観、豊富な自然資源、高山祭などの素晴らしい伝統文化、伝統芸能、慣習、風俗など多様な地域資源を有しており、中でも市中心部にある古い町並はその景観から「飛騨の小京都」と呼ばれ、年間を通じ多くの観光客が訪れている（仏ミシュランの実用旅行ガイドでは必見の観光地として3ツ星を獲得）。

桜の概要



広大な面積と起伏に富んだ地形を持つ高山市では、4月中旬から5月上旬にかけて市内の各地で様々な桜を楽しむことができる。

中でも一之宮町にある国指定天然記念物「臥龍桜（がりゅうざくら）」は、樹形が龍の臥した姿に似ていることからその名が付けられ、樹齢1100年余りで、枝張りは30mに及ぶ日本を代表するエドヒガンザクラの大樹である。

また、荘川町にある「荘川桜（しょうかわざくら）」は、樹齢500年余りの2本のアズマヒガンザクラで、御母衣ダムの建設により湖底に沈む運命にあったが、多くの桜を愛する人たちの情熱により、世界の移植史上例のなかった老桜の移植に耐え、毎年見事な花を咲かせている（岐阜県指定天然記念物）。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

高山市では、地域振興計画を策定し合併関係町村区域を単位とするそれぞれの地域の個性あるまちづくりをすすめている。

「臥龍桜」を有する一之宮地域や「荘川桜」を有する荘川地域では、桜を地域振興の重要な資源と捉え、開花の時期にあわせたPR活動やイベントの開催など、市内外に積極的な誘客活動を実施している。また、いずれの桜も老木であることから、その保存活動には地域をあげて取り組んでいるほか、子桜（2世）の育成管理にも取り組みながら、地域全体で「桜の里」づくりをすすめている。

◇高山市 web サイト：<http://www.city.takayama.lg.jp/>

新潟県 五泉市

まちの概要

五泉市は、新潟県のほぼ中央、県都新潟市の南東に位置する。平成18年1月に旧五泉市と旧村松町が合併し、新五泉市が誕生した。

良質で豊富な水資源に恵まれ、古くから絹織物の産地として知られ、戦後めざましい発展をみたニット産業は全国的な産地となっている。

また、肥沃な大地など自然の恵みの中で、全国的にも有数なぼたんやチューリップ、栗、銀杏（ぎんなん）、里芋など数多くの特産品を生み出している。

桜の概要

五泉市村松公園は、明治39年に日露戦役記念で造成された公園。3,000本を越す桜がいっせいに咲き誇る景色は華麗で、新潟景勝100選第3位に選ばれたほか、さくら名所100選にも選ばれている。桜はソメイヨシノが9割だがほかにもヨウコウザクラやシダレザクラも楽しめる。また、奈良時代の桜で、すでに絶滅したと長らく考えられていた「穂咲八重彼岸桜（和名は「ホザキヒガンヤエザクラ」だが、当公園では古い資料を基に「穂咲八重彼岸桜（ホサキヤエヒガンザクラ）」と呼び習わしている）」も毎年可憐な花を咲かせている。

市内には、国指定天然記念物の小山田彼岸桜樹林もあり、野趣あふれる山桜を一目見ようと訪れる観光客も多い。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

毎年、多くの観桜客が訪れる村松公園。桜まつり期間中は夜桜ライトアップも行われ、昼とは違った趣を楽しむことができる。その貴重な観光資源である桜の育成環境改善の資料とするため、土壌調査と生育環境調査を実施している。

また、穂咲八重彼岸桜の樹勢診断や、後継樹の培養を実施した。



◇五泉市 web サイト：<http://www.city.gosen.lg.jp/>

岡山県 津山市

まちの概要

津山市は、中国山地の懐に広がる山紫水明の城下町である。古くは713（和銅6）年に美作国が生まれ、政治の中心となる国府が津山に置かれた。また、山陰と山陽を結ぶ因幡街道や、出雲（島根県）と播磨（兵庫県）を結ぶ出雲街道などがあり、昔から交通の要衝でもあった。来年の2013年（平成25年）には、美作国建国1300年を迎える。

桜の概要

津山城（鶴山公園）は、津山市内の中心に位置し、津山市のシンボルとして市民はもちろん一般来訪者にも親しまれている。約千本の桜が満開になる「さくらまつり」の期間



中には、毎年10万人を超える人で賑わう。ソメイヨシノ（染井吉野）を中心に同系列のジンダイアケボノ（神代曙）やカンザン（関山）などが植樹されている。

また、高さ45mの石垣、その本丸から見下ろす桜色の雲海のような景色はまさに壮観。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

津山城（鶴山公園）には、様々な樹木が植栽されている。その中でも特に桜が津山市の春の観光の顔になっている。そのため平成10年3月「史跡津山城跡保存整備計画」を策定し平成29年度末までの長期的な視野で整備を行っている最中となっている。多くのソメイヨシノが寿命を迎えつつある現在、開花時期が一時期に集中しないよう樹種を増やし開花時期が延びるように努めている。

また、津山市では、市の花として「さくら」を定めている。

◇津山市 web サイト： <http://www.city.tsuyama.lg.jp/>

岐阜県 各務原市

まちの概要

各務原市は、岐阜県の南部に位置する人口15万人の都市である。市北部は水源林としての里山、南部には、古来より豊かな恵みをもたらしてきた木曾川、中央部は各務原台地という地形を活かし、自然と都市機能の調和、人生潤す癒しの空間の創出、地球環境に直結する水と緑豊かな「公園都市：パークシティ」を都市ビジョンとしている。

桜の概要

「日本さくら名所100選」に選ばれた「百十郎桜」がある。これはこの地を故郷に持つ歌舞伎役者の市川百十郎が、新境川の堤工事でたくさんの犠牲者が出たことを人づてで聞き、供養のためと1931年から2年間に渡り1,200本の桜を寄付したことに由来する。

戦争時中は、物資の不足などから炭や薪の材料としてこの百十郎桜も伐採されるようになり、一時は100本以下になったこともあったが、その後市民の植樹などで増やされ、見事な桜並木に育っている。また、おがせ池の桜など各所に桜スポットがある。いずれもボランティアによる保護活動や市民植樹など市民に愛されて育てられてきた。そこで、市は、市民憲章推進協議会の提案を受け平成22年4月市民の花木に「さくら」を決定した。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

「桜回廊都市」計画は、平成26年度までに市街地を囲む総延長39kmの桜並木の回廊を整備する計画である。平成15年度から毎年約300～400人の市民参加による桜植樹を行い、現在23kmが完成している。

また、201種類の「各務野櫻苑」、1000本の苗木を市民ボランティアで植樹した「三井山」などを、桜回廊の拠点として整備を行った。

「桜回廊都市」は、市民協働で行うことを基本とし、今後も整備から維持管理まで市民参加によるボランティア活動で進めていく予定である。



◇各務原市 web サイト： <http://www.city.kakamigahara.lg.jp/>